

第9回教育委員会（定例）議事録

1 開 会

令和3年10月25日（月） 14時00分

2 場 所

市役所第2庁舎3階 2-301・302会議室

3 会議に出席した委員

教育長 丹後 政俊

委 員 西田 正志

委 員 中村 貴子

委 員 山本 恭子

4 会議に出席した職員

部長(学校教育担当) 稲山 悟

部長(生涯教育担当) 小林 康弘

次 長 西羅 忠和

次長兼教育研究所長 酒井 宏

教育総務課長 中野 悟

学 事 課 長 山本 毅

学校教育課長 岸田 幸雄

東部学校給食センター所長 酒井 直隆

西部学校給食センター所長 石田 哲也

こども未来課長 竹見 朋子

社会教育課長 谷掛 昭二

文化財課長 村上 由樹

中央図書館長 小島 理三

田園交響ホール係長 山本 武司

教育研究所副所長 大野 圭一

教育総務課係長 田中 真紀子

5 議事日程及び議案

別紙の通り

6 開会宣言

14時00分

7 会 期

(自) 令和3年10月25日

(至) 令和3年10月25日 1日間

8 会議録署名委員名簿

山本 恭子 委員

9 閉 会

15時18分

丹後教育長	日程第 1、令和 3 年度第 7 回会議録、第 8 回会議録の報告、承認について意見等はないか。
全委員	異議なし。
丹後教育長	全員異議なしで、会議録をこのとおり承認する。
丹後教育長	日程第 2、会議録署名委員は 4 番山本委員とする。
丹後教育長	日程第 3、会期は令和 3 年 10 月 25 日、本日 1 日間とする。
丹後教育長	日程第 4、報告事項に移る。報告 1「寄附採納について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
西田委員	No.1 の寄附について、これは公文書ということか。
小島館長	個人が所有されていた城南村役場に関する資料である。
丹後教育長	報告 2「後援名義の承認について」教育総務課報告を求める。
田中係長	《議案書に基づき報告》
丹後教育長	報告 3「第 122 回丹波篠山市議会議長月会議一般質問について」教育総務課説明を求める。
中野課長	《議案書に基づき報告》
西田委員	本年度の篠山養護学校の看護師配置状況について説明を求める。
酒井次長	定数 3 人でスタートしている。正規職員 1 人、会計年度任用職員 2 人の定数 3 人で開始し、7 月から正規職員 2 人、会計年度 1 人体制で、会計年度任用職員は週 4 日勤務 1 人、週 1 日勤務 1 人で任用し、毎日 3 人の看護師を配置する体制を組んできた。しかしながら、退職願の提出もあり定数を不足しつつある。
西田委員	退職日はいつなのか。
酒井次長	10 月末付である。
西田委員	今田保育園への質問に関連することとして、保育園は気象警報が出ていても開所しているが、幼稚園や学校は、登園登校している間に警報が出ることもある。その際、基本は保護者へ引き渡し対応だと思うが、保護者の迎えを待っていたために災害に巻き込まれることもある。幼稚園についても保育園と同様の体制で、職員が公用車等で別の場所に移送するなどの体制が組めないのか。いざという時に臨機応変な対応ができる体制を検討してほしい。

竹見課長	<p>警報発令時について、保育園の現対応は園職員やこども未来課職員が園児を今田まちづくりセンターへ移送している。この一般質問の後、支所職員にも協力依頼ができないか協議し、支所からも了承を得たところである。幼稚園の体制も含めて今後も協議を進めていく。</p>
中村委員	<p>学校に関する将来的な基本計画が必要であるという質問もされたとのことであるが、市全体での、例えば統合も含めた計画を教育委員会事務局として進めているのか。その場合地域や保護者の意見は重要になってくるが、どのような意見が出ているのかわかる範囲で教えてほしい。</p>
稲山部長	<p>将来的な小学校、中学校の統合についての全体的な計画は、現在は持っていない。地域の方や保護者からお話を聞くなかで、地域の皆様から要望があることについては真摯に受け止め、例えば統合という話が出れば協議をしていくという市のスタンスは持っている。</p>
中村委員	<p>地域からの意見は今は出ていないということか。</p>
稲山部長	<p>特に小学校、中学校に関して聞いてはいない。今1点聞いているのは、今田地区まちづくり協議会から、将来的な今田地区における幼児教育、学校教育についての意見交換を教育委員会とされたいというご提案は9月頃にいただいた。11月中に地域での意見をまとめられ、懇談会をやっていききたいという話があった。</p>
西田委員	<p>通学路の点検についての質問に関連して、最近も市内で2人の死亡事故があった。警察も非常事態と考えておられると思うが、この機会に再度安全教育・交通安全についての周知を行うことと合わせて、プロジェクト会議について、これは通学路を考える会議だと思うので、この会議で報告すれば総合的に考えていただけるということが学校に十分周知がない気がするのでもよろしくお願ひしたい。</p>
山本課長	<p>千葉県での事故を受けて国から点検についての指示があり、8月に各小学校から80数箇所の危険個所の報告があった。それを受けて9月中に、篠山警察署、兵庫県丹波土木事務所、地域整備課等各所管課と教育委員会学事課で報告箇所の点検にまわった。今月中に整備内容を決定することになっている。予算の関係もあり、全てが早々に対応できるものではないが順次対応を行っていく予定である。</p>
西田委員	<p>国道176号線の味間小学校から篠山口駅前までの直線については、過去に大勢の方が交通事故で亡くなっている。ただこれは横断歩道や信号を渡らず横断されたり、渋滞している車の間を横断しようとして事故に巻き込まれたというものが多い。ハード整備と合わせてソフト面として交通安全教育の充実も学校に指導してほしい。</p>
稲山部長	<p>課長説明のとおり現在危険個所について集約中である。今後国で予算措置もあると思う。庁内でも、ハード面は安全設備は市民生活部市民安全課、まちづくり部、教育委員会の3者で協議を進め、ソフト面は交通安全啓発も担当している市民安全課、教育委員会事務局、学校園と連携をとりながら進めていく。事故が発生しないようできるだけの対応をとっていく。</p>

山本委員	先ほどの説明の中に、8月に小学校から80数カ所の危険箇所報告があったということであるが、小学校はどのように調査をして報告してきているのか。
山本課長	各学校で異なる部分もあるが、基本的には6月に一斉点検をするのでその内容を中心とした報告や、見守り隊の方からのご意見である。
丹後教育長	報告4「小中学校児童生徒の問題行動等について」学校教育課報告を求める。
岸田課長	《議案書に基づき報告》
中村委員	教職員の気づきが早いことについて大変ありがたいと思う。この初動報告をどう活かすかが今後の課題になると思う。教職員と児童生徒間でのコミュニケーションを深め、信頼関係構築に力を入れてほしい。 不登校数が昨年度に比べてかなり増加しているのが気になる。原因は何か教えてほしい。
岸田課長	不登校児童生徒は、昨年度と比較して数字としては増えている。不登校の定義が、30日以上欠席した児童生徒となるので、令和2年度は4、5月が休校であったため、比較したとき数値の増として影響している。不登校支援については、日頃から生徒の状況をきめ細かく把握をしながら支援を絶やさないことが大事だと思っている。引き続き児童生徒への支援を取り組んでいく。
西田委員	問題行動報告の様式は県の様式であると思うが、今、授業時数が異なるので令和2年度との比較は適切ではないと思う。令和元年度と比較して本年度はどうであるのかという資料を見せてほしい。今事務局として、通常どおり授業があった年度と比べて今年度はどのような状況だと思っているのか。
岸田課長	令和元年度との比較は今持っていない。今年度の状況について、これまでの状況と比較し、内容を捉えて把握することが大事だと思っている。分析もしていく。
丹後教育長	全国的には、コロナに関連して家庭内の状況も含めて不登校が増えていると言われている。半面、出会わないのでいじめが減っている傾向は全国的にあるように思う。
丹後教育長	報告5「令和3年度10月小・中・特別支援学校定例校長会について」学校教育課報告を求める。
岸田課長	《議案書に基づき報告》
中村委員	3.4.5歳児の睡眠時間と朝食の項目結果が上昇している嬉しい報告であった。アンケート自由記述から「子供が家族に話を聞いてもらって安心して落ち着き、笑顔になった」と報告があった。先ほどの問題行動の説明のなかにもあったが、教職員だけに頼らず、家庭で自分の子どもとの会話の重要性も

西田委員	<p>伝えていってほしい。</p> <p>アンケート結果で、6番「1週間の内、1日以上絵本（本）に触れる機会を持っている」について、この%を合計すると、昨年度82%、今年度73%である。ここに出てこない値は1週間一度も絵本（本）に触れない子どもがいるということか。もしそうなら、本年度はその割合が非常に増えているとなる。事務局はどのように分析してるのか。</p>
大野副所長	<p>ここの数値に上がっていない人は、無回答の場合や本に触れない方である。幼児もそうであるが、本年度小学校、中学校の全国学力・学習状況調査でも読書習慣は全国平均より低い結果が出ていたので、今後啓発の必要性を感じている。</p>
西田委員	<p>無回答を勘案しても、1週間一度も絵本に触れない子どもが増えているということか。</p>
大野副所長	<p>そうである。</p>
山本委員	<p>結果を聞き、市内では小さな子どもの保護者の多くが日々ご苦勞のなか子どもの規則正しい生活リズムについて意識されていることを知り感心した。そのなかで、メディアの利用に関しては、幼児として考えると、利用時間が長くて、寝るのが遅めの子どもも若干あることがここからわかる。メディア利用の理由や利用する時間帯などについて、今後調査する機会あれば分析していただきたい。</p> <p>自由記述のとりまとめもありがたい。困っていることはみんな同じようなことが多いのではないかと思う。上手くいっているコツや工夫していることはリアルな方策だと思うので、これらの情報が保護者間で共有できるシステムがあれば、困っている保護者の参考になるのではないかと思う。</p>
丹後教育長	<p>報告6『「人権教育に関する教職員の意識調査」報告について』教育研究所報告を求める。</p>
酒井次長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
西田委員	<p>説明されたことについては十分理解できた。無理もないかなと思う部分と、同じ教職員として許してはいけないという部分と、自信のない教職員が授業をすることを恐れているという感じを受けた。</p> <p>昭和40年代の同和対策審議会のことを知らないことは無理もないと思う。なぜなら私自身も自分で学んだことであり、どこかで研修を受けて学んだものでない。今の若い教職員には必要であれば研修で補っていく部分だと思う。</p> <p>許せない部分と感ずるのは、「差別はなくなるか」という問いに対して、そう思わないと思う教職員がいるということである。平成28年度に市民に対して行った調査の項目もあるということであるが、教職員と市民では違うと思うので、教育の立場にある者が、「なくなる」ということを肯定するというのは、そのように考える時点で他人事になっていると思う。非常に残</p>

	<p>念に思う。そのあたり今後の教職員の研修で補っていただきたい。</p> <p>同和問題だけでなく、外国人問題や男女のことの設問もあるが、非常に古い感覚で「仕方ない」と回答されているものもあり、これも同じで、「教育」に携わるものとしてそのように考えるのはどうなのかと思う。知らないことが差別を生むということもずっと言われてきていることであるが、同和対策審議会答申や水平社宣言のことを歴史の中で学んでいないこともあるかもしれないが、教職に就いてから部落差別解消推進法ができたはずなのに、知らないという教職員がいる。これは教職員としてあるまじきことだと思う。教育研究所で研修も実施しているし啓発もしており、その中で教育の責務も語られている。それを「知らない」と言える、またそのうえにアンケートにそのことを平気で回答することについて、そういう教職員は自分の職責を真摯に考えているのかと強く感じた。</p> <p>事務局に対しては、この意識調査は大変だったと思う。勇気をもって真摯に取り組んだことはありがたいと思う。</p>
酒井次長	<p>初めて意識調査を実施して明らかになったことは、今までデータもないまま研修をやってきた部分も、今後の研修のあり方について明らかになったことは良かったと思う。もっと細かく分析することもできるが、個人を特定しないということもあるなかで、少人数職種であれば個人の特定につながるので、細かい分析までは出していないことをご理解いただきたい。</p> <p>今年度はこの調査もしながら、同和問題、特に人権同和に関する研修を数多く実施し、全教職員が何らかの研修を受講できるようにした。8月には全教職員対象の研修会を2回実施、ほかに初任者対象、5年未満対象、主幹教諭対象と全部で4回やってきた。その研修の中でも、知らないことが差別を残すということは講師からも話があり、きっちり正しいことを把握することが大事だと講師から指導もいただいている。今後もこの方向で取り組んでいく。</p>
丹後教育長	<p>報告7「ホストタウン事業（プエルトリコ・チャイニーズタイペイとのオンライン交流）について」社会教育課報告を求める。</p>
谷掛課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>
丹後教育長	<p>直接交流はできなかったが、オンライン交流は意義があった。子どもたちが世界に向ける意識が高まったと考える。</p>
丹後教育長	<p>報告8「第42回丹波篠山ABCマラソンの実施方法等について」社会教育課報告を求める。</p>
谷掛課長	<p>《議案書に基づき報告》</p>

山本委員	開催のための前提条件があり、それを乗り越え丹波篠山の代表的な事業に色々な知恵を絞って開催に向けて取り組むことに感謝する。
谷掛課長	定員 4,000 人というのは色々な試算のうえと思うが、これは先着なのか。
西田委員	先着順とさせていただく。
谷掛課長	間近に迫っているが周知はどのようにしていくのか。
西田委員	ホームページ、市広報等、それから業者から周知をする。
谷掛課長	先日大阪で ABC マラソンの完走 T シャツを着ておられる方と出会った。ABC マラソンの魅力を尋ねると、丹波篠山市の温かいおもてなし、しし汁のふるまい、少年野球チームが配る飴、太鼓等と仰っていた。大会開催にあたっては色々難しいことがあるとは思いますが、4,000 人というのは今までのニーズから見ると厳しいことになると思うので、そういうこともしっかりと受けとめ、良い大会となるようお願いしたい。
西田委員	今回は、しし汁のふるまいなど、いつもの丹波篠山らしいおもてなしの部分はできない状況での開催になってしまう。参加いただく皆様には大変申し訳ないが、今回はそのことをご理解のうえご参加いただけたらと思う。
丹後教育長	一番は丹波篠山市の温かい気風だと思うので、かたちを変えて実施できればと思う。
丹後教育長	従来どおりのふるまいはできなくても、温かく迎える気持ちは変わらないと思う。開催にあたり色々配慮がいるが成功させていきたい。
丹後教育長	報告 9「教育長報告」について報告する。 多くは教育長業務であるが、他にも私の思いで出席させていただいているものもある。例えば、9/29 篠山鳳鳴高校が主催されているキャリア教育出前講座である。10/9 公民館事業である丹波篠山世間遺産は、若者が集まり丹波篠山の魅力を発見しようという講座、10/13 今田中学校であった今田まちづくり協議会主催の「プロから学ぶ」講演会、10/21 市長学校訪問の様子を見学した。できるだけ生の現場を見て、知見を増やし、ゆくゆくは施策に反映したいという思いを持っている。 以上で教育長の報告とする。
丹後教育長	それでは、第 9 回定例教育委員会をこれで終了する。